

(社)日本コンクリート工学協会四国支部
第4回「四国の骨材に関する研究委員会」WG3・WG4合同委員会 議事録

1. 日 時：平成21年6月17日(水) 14:30～17:00

2. 場 所：新居浜市リーガロイヤルホテル

3. 出席者：

島 弘 (高知工科大学), 橋本親典 (徳島大学), 森澤勝弘 (生コン高知工組), 川人潤一 (生コン徳島工組), 福田周一 (砕石愛媛支部), 富士田治好 (砕石徳島支部), 近藤洋司 (砕石香川支部), 半澤文好 (砕石高知支部), 濱本久光 (砕石愛媛支部), 吉田幸稔 (砕石香川支部), 大石一彦 (砕石高知支部), 山下洋文 (砕石高知支部), 小泉 孝 (砕石愛媛支部), 白石泰雄 (砕石愛媛支部), 岡 寛 (砕石愛媛支部)

オブザーバー：宮地日出夫 (高知工科大学)

(敬称・所属略, 順不同) 以上16名

4. 配布資料：

4-0 出席者名簿

4-1 前回委員会議事録案 (平成21年3月27日(金)開催)

4-2 コンクリートの乾燥収縮に関する検討 (島弘 WG3 主査作成)

4-3 骨材の収縮に関する検討 (島弘 WG3 主査作成)

4-4 徳島県生コン工業組合における調査結果に関する中間報告 (橋本親典 WG4 主査作成)

4-5 高知県生コン工業組合における調査結果に関する報告 (森澤委員作成)

4-6 コンクリートの収縮問題検討委員会中間報告の抜粋 (吉田幹事作成)

5. 議 事：

(1) 委員の交代

吉田幹事から、砕石協会高知支部の委員が山下さんから半澤さんに交替したことの報告があった。

(2) 前回議事録案の承認

橋本 WG4 主査から、配布資料 4-1 を用いて、前回議事録案の確認が行われ、1カ所のワープロミスの修正のうえ、異議なく了承された。本議事録案は、そのまま JCI 四国支部の HP にアップロードすることが承認された。

両 WG 主査から、5月に開催された JCI 四国支部の総会での本研究委員会活動状況の説明が行われたこと、本年度の研究委員会予算が昨年と同様に20万円(4つのWG)であること、本年度は、本研究委員会以外に、新規の研究委員会が2件設置されたこと等の報告がなされた。

(3) 骨材の種類が異なるコンクリートの乾燥収縮および骨材自身の収縮に関する実験結果について

島 WG3 主査から、配布資料 4-2 および 4-3 を用いて、前回 WG からの経過について、収縮量が逆転現象は見られないこと、コンクリートの収縮は収束しつつあるが重量減少はまだ少し続いていること、収縮は大きくないが重量減少が他に比べて極めて大きい骨材があること等の説明がなされ、粒形判定実績率と乾燥収縮との関係を調査する必要がある等の意見が出された。

骨材自身の実験においては、再度、浸漬を始めても良いのではないかとの意見が出された。

また、福田委員から砕石協会として、コンクリートおよび骨材自体の乾燥収縮特性と内部比

表面積との相関を検証するために、実験に用いた砕石の内部比表面積の計測を外部に委託する予定があるとの報告がなされた。

(4) 徳島県生コン工業組合における実験結果について

橋本 WG4 主査から、配布資料 4-4 を用いて、今回の実験範囲では特異な収縮現象が出たものはなかったこと、低温炉乾燥による迅速法によって材齢 91 日の JIS 法に比べて収縮ひずみが安全側の予測が可能であることなどの説明がなされた。

(5) 高知県生コン工業組合における実験結果について

森澤委員から、配布資料 4-5 を用いて、砂岩系骨材および石灰岩系骨材を用いたコンクリートの収縮について、骨材の組み合わせによって収縮量が異なってくることなどの説明が行われた。

(6) JCI 本部の収縮問題検討委員会について

吉田委員から、配布資料 4-6 を用いて、JCI 本部で行われている委員会の検討内容について説明がなされた。吉田委員が配布資料 4-6 の講習会に参加する予定であるので、講習会での報告書と配布資料 4-6 の内容との差異を確認していただくことになった。

(7) 今後の方針について

橋本 WG4 主査から、今後の活動に関して、どんな対策を検討したいか等の意見を収集し、それを基に WG4 の活動としたいとの意見が出され、次回 WG の一週間前（9 月 5 日）までに各委員が意見を橋本 WG4 主査に e-mail で送ることとした。

なお、対策の評価方法としては、特に JIS 法の乾燥材齢 182 日の 800μ 以下にこだわる必要はないとの判断で、本研究委員会で検討してきた迅速法（乾燥材齢 42 日）で行うことが了承された。よって、今後の対策検討 WG4 の実験では、JIS 法ではなく迅速法を用いることを原則することになった。

最後に、本研究委員会は、石灰石骨材によるコンクリートの乾燥収縮ひずみの低減を推奨するための活動ではなく、あくまで、四国で産出され、コンクリート用骨材として利用されている多様な骨材の地産地消の可能性を最大にすることを目的としている。しかしながら、石灰石骨材の一部置換等の動きは早いので、石灰石骨材の利用とそれ以外の骨材との共存共栄ができる方策や技術を提案していくべきであるという意見が出され、これを本合同委員会として確認した。

6. 次回委員会開催日時の決定

開催日時：9 月 11 日（金）14:30～17:00、開催場所：徳島大学

以上